

DAIFUKU

Material Handling and Beyond



株式会社ダイフク

BUSINESS REPORT

第93期 第2 四半期報告書

平成20年4月1日～9月30日

証券コード：6383

ご挨拶

株主・投資家の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第93期第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)の報告書を株主の皆様にお届けするにあたり、平素のご支援に対しまして厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界の経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した先進各国の金融市場の混乱が続く中で、エネルギー・原材料・食料価格の高騰、株式市場や為替相場の乱高下などの影響により、日米欧各国を中心に実体経済の悪化が避けられない見通しとなりました。これまで成長の牽引役を果たしてきた中国、インドなどの新興国への影響も懸念されており、総じて世界経済の先行きはますます不透明感が増えています。当業界におきましても、設備投資の抑制・繰り延べ傾向が、次第に表面化してまいりました。本年度後半からはその影響がさらに大きくなると見込まれます。

このような事業環境の中ではありませんでしたが、当社グループにお

いては、物流システム部門がほぼ期初計画通りに推移いたしました。いずれの事業においても、豊富な納入案件へのサービス事業が経営の足腰をしっかりと支えている構図となっています。

この結果、受注高は149,934百万円(前年同期比15.3%増)、売上高は125,836百万円(前年同期比13.4%増)を計上しました。プロジェクト管理の徹底なども奏功し、営業利益は10,193百万円(前年同期比4.1%減)、経常利益は10,163百万円(前年同期比6.2%減)、四半期純利益は5,902百万円(前年同期比1.9%減)をそれぞれ計上しました。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

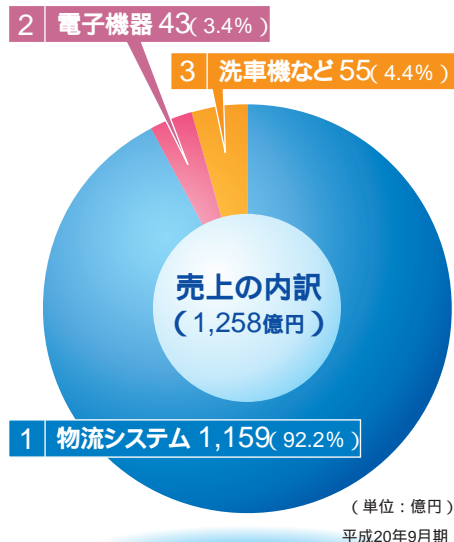
平成20年11月

代表取締役会長

竹内克己

代表取締役社長

北條仁樹



1 自動車工場向け搬送システム



1 液晶工場向け保管システム



1 自動倉庫



2 産業用パソコン



3 環境対応洗車機

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

①物流システム事業

受注面では、製造業や流通業界向けの保管・搬送・仕分け・ピッキングシステム事業は、IT・流通・医薬卸など幅広い業界の大型案件が順調に推移し、ほぼ期初計画通りの展開となりました。自動車生産ラインの搬送システム事業は、北米をはじめとする国内外の景気変動の影響はあるものの、大型車から中小型車へのシフトなどに伴う改造需要などにより、底堅く推移しています。国内およびアジア地域におけるエレクトロニクス業界向けクリーンルーム内の搬送・保管システム事業も、おおむね計画通りに推移しました。北米を中心とするウェブ社事業は、空港手荷物搬送事業を中心に第3四半期以降に期待をつなぐこととなりました。

売上面でも、同様に主力事業が堅調に推移しました。

この結果、当事業の受注高は140,790百万円(前年同期比19.7%増)、売上高は115,968百万円(前年同期比16.3%増)、営業利益は13,538百万円(前年同期比19.7%増)を計上いたしました。

②電子機器事業

厚さ2.5ミリと業界最薄レベルの産業用パソコン(写真2)などの新商品や生産ラインの監視と制御を行う米国Wonderware社製ソフトウェア InTouch Compact を組み込んだパネルコンピュータなど特長ある製品を市場に投入しましたが、半導体・検査装置関連業界などでの設備投資減少の影響を大きく受けました。

この結果、当事業の受注高は3,416百万円(前年同期比35.3%減)、売上高は4,327百万円(前年同期比13.8%減)にとどまりました。売上減により、営業損失として95百万円(前年同期519百万円減)のやむなきに至りました。

③その他事業

主要製品の洗車機では、環境対応と経済性の両立を他社との差異化のポイントと位置づけ、節水型洗車機シリーズとしてセルフサービス式スタンド向けに「ワックスモア・スフィード」を、フルサービス式スタンド向けに門型洗車機の節水機構対応を図り、それぞれ4月、8月に発売しました。これらにより、受注台数面では前年同期を上回ることができました。しかしながら、高止まりで推移したガソリン価格がガソリンスタンド経営を圧迫し、定額機種へのシフトや洗車台数の減少に伴うケミカル関連商品の低迷で売上、利益ともに減少することとなりました。

この結果、当事業の受注高は5,727百万円(前年同期比19.0%減)、売上高は5,540百万円(前年同期比11.3%減)、営業利益は250百万円(前年同期比21.9%減)を計上することとなりました。

世界最高! 従来機の6倍の入出庫能力 流通業界、海外向け戦略商品に

当社は、物流センター向けの新商品として、高能力ケース自動倉庫「DUOSYS」(Synchronized Duo System = デュオシス)を開発、9月に行われた「国際物流総合展2008」への出展を機に発売を開始しました。

2台のクレーンが1つの通路ですれ違い作業

DUOSYSは1時間に最大2,200ケースという、従来機の約6倍の世界最高(当社調べ)の入出庫処理能力を持ちます。独自の同調制御技術によって、1つの通路に2台のクレーンを走行させ、世界で初めて、互いに干渉を避けてすれ違いながらの入出庫作業を可能にしました。さらに上下2層構造として、4台のクレーンを同時に稼働させることで、非常に高い処理能力を実現しました。



4台のクレーンがシンクロ

仕分け・荷揃えを行う出荷処理システム

DUOSYSは単なる保管システムではなく、仕分けや荷揃えなどの出荷処理システムとしても活用でき、従来に比べ少ない人数での物流センターの運営を可能にします。また、立体的な構造のため、平面的な設置面積の多い自動仕分け機を使う場合に比べ、省スペース化が図られ、建築費などを抑えて投資効率を高めることができます。



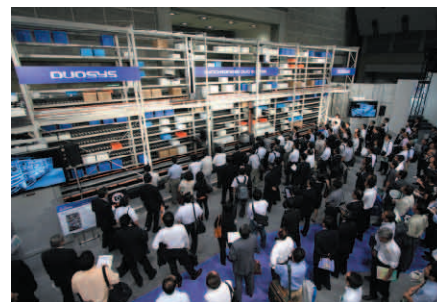
2台のクレーンがすれ違う瞬間

ハイブリッド車と同じエコロジーシステム

今日、機械装置には一層の省エネが求められています。DUOSYSは、クレーンの軽量化設計に加え、処理数に合わせての稼働台数や速度の最適化、減速時に生じる回生電流の利用により大幅に消費電力を減少させました。

回生電流: ブレーキ時などにモーターが発電機として動作して発生する電流。
ハイブリッド自動車などで使われている技術

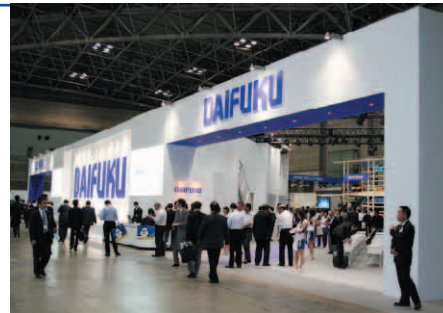
当社は、これらの特長を持つDUOSYSを独自の新DA(Distribution Automation)システムと位置付け、流通業界や海外市場向けの戦略商品として拡販していきます。



デモは常にたくさんの人だかり

「国際物流総合展」は、2年に1度開催される業界最大の展示会。今回は約14万人が来場しました。

DA、FA(Factory Automation)両方の事業を行っていることが、ダイフクの強みの1つ。同展では、半導体工場のクリーンルーム内向けの搬送システムなども出展しました。



メインステージ

278インチの大画面モニタを使用したプレゼンテーションでは、国内飲料メーカーはじめ、アメリカのダイレクトメール印刷会社、中国の医薬会社、スウェーデンのスーパー、韓国の運輸・倉庫会社などグローバルな納入事例を紹介。

また、北條社長が、画面を通して「あらゆる業界・業種の発展にお役に立てる企業でありたい」と強く訴えました。

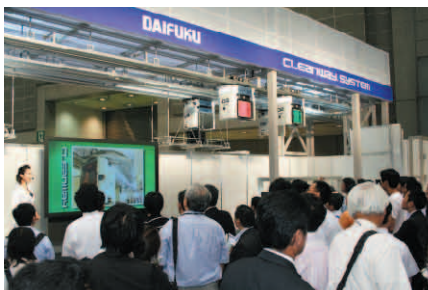
社長メッセージは初の試み

RFIDソリューション

今日、関心が高まっているRFID(無線ICタグ)を活用したシステム例を紹介。RFIDタグを取り付けたカゴ車の高度な位置検知、積載品すべてを一括同時読み取りする入出荷管理システムを紹介しました。



カゴ車の位置を自動検知
質問の多さが際立ちました



クリーンウェイ

半導体工場向けウエハ搬送システム「クリーンウェイ」を出展。普段見ることができないクリーンルーム内の搬送システムに高い関心が寄せられ、ダイフクの総合力の高さをアピールしました。

天井走行で工程間を結ぶ「クリーンウェイ」

「DUOSYS」「クリーンウェイ」は滋賀事業所内の総合展示場「日に新た館」で実際にご覧いただけます。(日に新た館見学会を3月2日に行います。詳細10ページ)

株主還元

● 自己株式250万株取得

積極的な株主還元のため、自己株式を250万株取得しました。8月26日から9月18日にかけて、東京証券取引所で市場買付を行ったもので、取得価額は約21億円。これにより株主還元度を示す「総配布性向」(配当金額と自己株式取得価額の合計を当期純利益予想額で割ったもの)は、およそ50%になります。

● 日経IRフェアに出展

8月22日、23日、「日経IRフェア2008」が東京ビッグサイトで開催されました。ダイフクブースでは、パネルやビデオでの事業紹介、ミニ説明会などを行い、約1,200名の方にお立ち寄りいただきました。当社は個人投資家の方との対話の機会として、同様のIRイベントに年2回出典しています。次回は来年2月13～14日に京セラドーム大阪で行われる「関西ノムラ資産管理フェア2009」に出典します。

また、3月2日には、当社はより深く理解していただくために、個人株主の方を対象に、滋賀事業所内総合展示場「日に新館」見学会を行います。詳細は10ページをご覧ください。

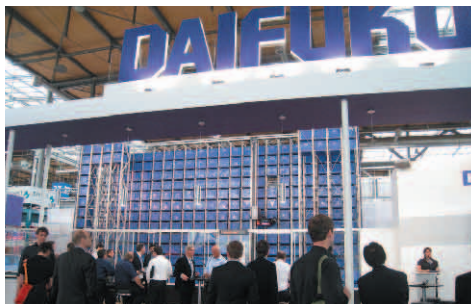


ブースで行ったミニ説明会

展示会

● 世界最大のマテハン展示会に初出展

5月27日から31日にドイツ・ハノーバーで開催された世界最大規模のマテハン展示会「CeMAT2008」に初出展しました。ダイフクは高速自動倉庫「ファインストッカー」の展示などを行い、多数の引き合い情報を得ることができました。日本の「国際物流総合展2008」(詳細は3、4ページ) 来年1月に米国で開かれる展示会「ProMat2009」と合わせて、日米欧三極で積極的にPRを行ってまいります。



CeMAT2008のダイフクブース

業界動向

● 「日本物流システム機器協会」を設立

7月3日、物流システム機器の市場拡大に伴い、メーカー中心の業界団体「日本物流システム機器協会」が設立され、当社の竹内会長が初代会長に選ばれました。会員は29社・団体でスタート、1年以内に100社程度まで増やす予定です。各種研究会、講演会、展示会の開催、統計・調査・研究、人材教育などを行い、業界の社会的認知度、国際競争力の向上に努めます。



協会役員と代表監事
前列中央が
当社竹内会長

新商品

● 環境にやさしい洗車機「スフィーダ」を発売

昨年発売した「アビエント」に続き、一段と環境対応を進めた門型ドライブスルー機「スフィーダ」を4月から発売しました。「スフィーダ」は、「アビエント」と同様の節水設計（使用量1/2以下）、植物由来原料のシャンプー、ワックスの使用に加え、さらに液剤の油分を大幅に削減しています。また、「軽自動車自動認識システム」をセルフサービス式スタンド向けの一部機種向けに開発。増加傾向にある軽自動車の洗車を促進します。



スフィーダ

再開発

● 中部地区の拠点、小牧新事務棟完成

中部地区の営業・サービスなどの主力拠点として小牧事業所新事務棟が完成し、9月3日に開所式を行いました。自動倉庫などの工場を滋賀事業所に移転したのに伴い、老朽化した旧事務棟の建て替え、跡地再開発を進めてきたもので、跡地の一部は流通団地として活用されます。



小牧新事務棟

CSR

● 韓国現地法人、ISO14001取得

韓国で液晶・半導体工場向け搬送システムの製造、工事、サービスを手がけている Clean Factomation, Inc. が7月、ISO14001の認証を取得しました。全社員が政府主管の通信教育を修了することで、費用が還付され、実質無償での取得となりました。



監査の様子

● 車いす用リヤリフト搭載介護車両を贈呈

8月20日、滋賀県日野町役場で当社製車いす用リヤリフト搭載介護車両の贈呈式が行われました。これは社会貢献活動として昨年から実施しているものです。町内の特別養護老人ホームに1台寄贈しました。



寄贈した福祉車両。藤澤町長が試乗

四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末
(平成20年9月30日現在)

資産		百万円	負債及び純資産		百万円
(資産の部).....(200,617)			(負債の部).....(112,062)		
流動資産		147,616	流動負債		87,286
現金及び預金		20,249	支払手形及び買掛金		35,972
受取手形及び売掛金		62,436	短期借入金		18,012
商品及び製品		3,059	未払法人税等		3,743
仕掛品		38,117	前受金		15,342
原材料及び貯蔵品		7,825	役員賞与引当金		150
その他		16,186	その他		14,065
貸倒引当金		257	固定負債		24,775
固定資産		53,000	社債		4,000
有形固定資産		36,323	新株予約権付社債		4,998
無形固定資産		3,653	長期借入金		10,007
投資その他の資産		13,023	退職給付引当金		2,172
その他		13,347	役員退職慰労引当金		90
貸倒引当金		323	その他		3,508
合計		200,617	(純資産の部).....(88,555)		
			株主資本		84,889
			資本金		8,024
			資本剰余金		9,032
			利益剰余金		70,236
			自己株式		2,403
			評価・換算差額等		408
			その他有価証券評価差額金		85
			繰延ヘッジ損益		27
			為替換算調整勘定		521
			少数株主持分		4,073
合計		200,617	合計		200,617

貸借対照表のポイント

- 1.自己株式の取得を21億円行いました。前期末までの保有自己株と合わせて24億円となっています。
- 2.前受金は前連結会計年度末より69億円減少しました。
- 3.為替換算調整勘定が前連結会計年度末より15億円減少しました。

四半期連結損益計算書

当第2四半期連結累計期間

(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

連結損益計算書

百万円

■ 売上高	125,836
売上原価	99,472
売上総利益	26,364
販売費及び一般管理費	16,171
■ 営業利益	10,193
営業外収益	
受取利息及び配当金	209
その他の	285
	494
営業外費用	
支払利息	328
為替差損	160
その他の	35
	525
■ 経常利益	10,163
特別利益	
固定資産売却益	11
貸倒引当金戻入益	13
その他の	2
	28
特別損失	
固定資産除売却損	220
投資有価証券評価損	132
その他の	4
	357
税金等調整前四半期純利益	9,834
法人税、住民税及び事業税	3,578
法人税等調整額	315
	3,894
■ 少数株主利益	37
四半期純利益	5,902

損益計算書のポイント

1. 売上は、主力の物流システム部門が、ほぼ期初計画通り堅調に推移しました。ウェブ社事業も連結に加わったため、前年同期比13.4%増となりました。
2. 各利益の面でも、昨年に近い実績となり、営業利益は4.1%減の101億円、経常利益は6.2%減の101億円、純利益は1.9%減の59億円を計上しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間

(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

連結キャッシュ・フロー計算書

百万円

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,253
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	2,308
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,657
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,207
現金及び現金同等物の減少額	11,427
現金及び現金同等物の期首残高	31,215
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	18
■ 現金及び現金同等物の四半期末残高	19,806

キャッシュ・フロー計算書のポイント

現金及び現金同等物の四半期末残高は、前年同期に比べ7.4%減の198億円となりました。

1. 営業活動によるキャッシュ・フローは、62億円の支出超過となりました。主に、税金等調整前四半期純利益が98億円あったものの、仕入債務の減少による支出が49億円、前受金の減少による支出が80億円あったためです。
2. 投資活動によるキャッシュ・フローは、23億円の支出超過となりました。主に、固定資産の取得(本社社屋改修、社員寮建設、生産設備維持更新)による支出24億円によるものです。
3. 財務活動によるキャッシュ・フローは、16億円の支出超過となりました。主に、有利子負債の増加による収入が33億円ありましたが、配当金の支払による支出が18億円、自己株式の取得による支出が21億円あったためです。

四半期貸借対照表 (ご参考)

当第2四半期会計期間末
(平成20年9月30日現在)

資産		百万円
(資産の部).....		(152,437)
流動資産.....		98,497
現金及び預金	5,269	
受取手形	3,929	
売掛金	44,712	
商品及び製品	285	
仕掛品	34,794	
原料及び貯蔵品	3,840	
短期貸付金	822	
その他	4,848	
貸倒引当金	5	
固定資産.....		53,940
有形固定資産.....		25,833
無形固定資産.....		1,686
投資その他の資産.....		26,419
その他	27,014	
投資損失引当金	287	
貸倒引当金	307	
合 計.....		152,437

負債及び純資産		百万円
(負債の部).....		(82,705)
流動負債.....		65,168
支払手形及び買掛金	26,941	
短期借入金	11,210	
一年以内に返済予定の長期借入金	5,000	
未払法人税等	2,955	
役員賞与引当金	87	
前受金	13,309	
その他	5,663	
固定負債.....		17,537
社債	4,000	
新株予約権付社債	4,998	
長期借入金	8,000	
長期未払金	420	
退職給付引当金	87	
その他	31	
(純資産の部).....		(69,731)
株主資本.....		69,633
資本金	8,024	
資本剰余金	9,032	
利益剰余金	54,980	
自己株式	2,403	
評価・換算差額等.....		97
その他有価証券評価差額金	72	
繰延ヘッジ損益	25	
合 計.....		152,437

四半期損益計算書 (ご参考)

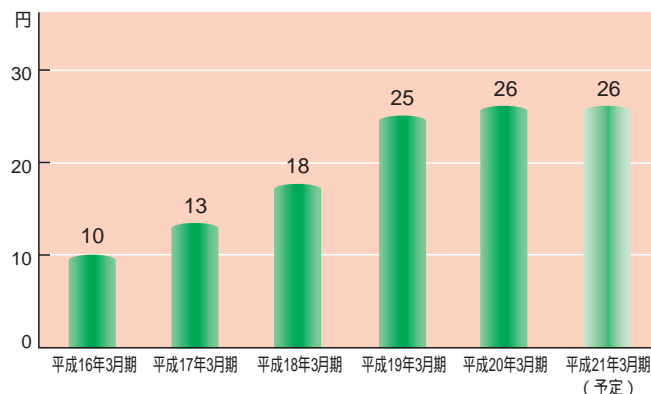
当第2四半期累計期間

(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

損益計算書		百万円
売上高	88,628	
売上原価	72,030	
売上総利益	16,598	
販売費及び一般管理費	8,596	
営業利益	8,002	
営業外収益	203	
営業外費用	385	
経常利益	7,820	
特別利益	10	
特別損失	348	
税引前四半期純利益	7,482	
法人税・住民税及び事業税	2,815	
法人税等調整額	101	2,916
四半期純利益	4,566	

配当の基本方針

- 平成17年3月期から業績運動型施策へ転換
- 平成19年3月期の年間配当25円 創立70周年記念配当4円含む
- 平成20年3月期は年間配当26円。平成21年3月期も26円を予定



Information

「日に新たな館」見学会のご案内

個人株主の皆様当社へのご理解を一層深めていただけるよう、滋賀事業所内の総合展示場「日に新たな館」見学会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「日に新たな館」では、日頃ご覧いただく機会の少ない自動車組立ラインや自動倉庫をはじめとして、400点に及ぶ物流機器、システムを展示しております。

対象者: 平成20年9月30日現在、当社株式500株以上をご所有の個人株主様(同伴者は1名まで可、お客様の同伴は小学生以上とさせていただきます)

日時: 平成21年3月2日(月) 10時～16時

集合・解散場所: JR東海道本線 近江八幡駅または米原駅

募集人数: 100名様 同伴者含む
(ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選結果につきましては、平成21年1月下旬までに当落にかかわらず、書面でご連絡させていただきます)

応募方法: 同封のはがきをご返送ください。

締切日: 平成21年1月9日(金)

参加費: 無料(集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます)

昼食: 日に新たな館にてご用意しております。



日に新たな館ホームページ
<http://www.daifuku.co.jp/hiniaratakan/ja/>

ご応募により当社が取得する個人情報は、本見学会を実施する上で必要な限りにおいて使用いたします。

【株券電子化後の株式に関するお届け先およびご照会先について】

株券電子化後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である下記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、下記の株主メモの電話照会先をお願いいたします。

【株券電子化に係る買取請求および買増請求のお取り扱いについて】

株券電子化への移行に伴い、施行日前後における単元未満株式の買取請求および買増請求につきましては、一定期間受付が制限されますので、お含みおきいただきますようお願いいたします。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.daifuku.co.jp/ir/
上場証券取引所	大阪第1部、東京第1部
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183 - 8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	住所変更等用紙のご請求 — ☎(0120)175-417 その他のご照会 — ☎(0120)176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
	メール配信サービスのご案内 http://www.daifuku.co.jp/ir/

会社概要

創 立	昭和12年5月20日
資 本 金	8,024百万円(平成20年9月30日現在)
従 業 員 数	グループ総数 5,700名(平成20年9月30日現在)
主 要 事 業 所	大阪、東京、滋賀、小牧